

2018 日本学生トライアスロン選手権観音寺大会

競技規則(ローカルルール)と注意事項

(競技者は必ず目を通すこと。)

●はじめに

本大会は、日本トライアスロン連合(JTU)競技規則に加え、「日本学生トライアスロン選手権ローカルルール」(本紙)を設定して競技を行う。尚、特別に設定された項目以外は全て共通とする。

●大会運営について

円滑な学生大会の運営を行うため、選手は必ず時間を守らなければならない。時間等の変更は大会本部前に提示し、選手は各人の責任で変更事項について注意を払わなければならない。また、設定された時間に遅れる行為は厳重なペナルティーを課す他、場合によっては失格の対象とする。

●競技規則・備品について

- (1). 競技コースにおける周回数のカウントは選手の自己責任とする。周回の計測はアンクルバンドによって管理し、その周回数をオフィシャルとする。
- (2). エアロボトルは、全体の形状が水分を含むのに自然な形状をしている物のみ認める。
- (3). 新機材、新製品、手作り品の使用については、受付時に申告し、個別審査を受ける。
- (4). フィジカルナンバーシール以外のペインティング・タトゥーシール等は禁止とする。
- (5). ホイールはスポークが12本以上のものとし、バトンホイールの使用は認めない。なお、今年度からディスクブレーキの使用を認める。
- (6). ハンドルバーのエンドキャップが外れている場合、原則としてレースへの参加を認めない。大会会場で当日紛失する等して用意ができない場合はテープ等でしっかりと穴を塞ぐこと。
- (7). ナンバーカードはナンバー及び協賛企業名が見えるように、必ず身体の前後に装着すること。ナンバーカードが破けたり、外れたりすることがあるため、ナンバーベルトの使用を

推奨する。ユニフォームに付けたナンバーカードが破ける、又は外れた場合、審判員・係員が確認できるように提示するか、競技中に付け直せば、競技を認める。

(8). ナンバーカードを意図的に折り曲げる等してナンバーが確認できない状態をつくる行為はペナルティーの対象とする。

(9). 本大会においては、バイクコース上にストックホイールの設置エリアを設ける。競技者以外の者が競技者に対し、ストックホイールを受け渡す行為は禁止とする。ストックホイールは受付の際、前後のホイールを固定具(ヒモ等)で固定し、大学名が確認できるように提出すること。

(10). ストックホイールは1大学につき前後1セットのみを基本とするが、出場者が20名を超える大学は2セットの使用を認める。同様に出場者が30名を超える大学は3セットの使用を認める。尚、ストックホイールの共有は大学内のみとし、チーム内の共有は認めない。ストックホイールはディスクブレーキとリムブレーキの2種類とする。

(11). バイクはJTU競技規則、競技用バイク基準にのっとったバイクでなければならない。基準に則っていない物は、参加を認めない。

●応援について

(1). 本大会は競技者以外の者が競技者に対し、順位や前の選手との時間差等の情報を与えることを認める。但し拡声器を用いてはならない。

(2). 応援者又はコーチが特定の競技者と伴走又は追走することは個人的援助とみなし、禁止する。

(3). 競技中に競技者以外の者が競技者に対し、補給物資や装備の受け渡しをした場合、個人的援助とみなし、受け取った選手は直ちに失格とする。

(4). マナーとモラルを持った応援を心がけること。場合によっては、応援を妨害行為と審判長が判断し、厳重注意を与える。

●レースウェアについて

(1). レースウェアは学校・大学チーム名・及び市販されている状態でのメーカー・ブランド・ショップ名のロゴ表示のみとすることを推奨する。

(2). フロントファスナーの付いているレースウェアは使用禁止とする。

●ペナルティーについて

(1). JTU競技規則及びローカルルールに違反する行為に対してはペナルティーを与える。

又、競技中に適用を受けなかった場合でも違反行為が認められた場合はレース後にペナルティーを与えることがある。

(2). ペナルティーは「ストップアンドゴー(SG)ルール」又は「タイムペナルティー(TP)ルール」がその時の状況により、審判員の裁量で適用される。

TPルールについては1回の違反につき15秒のペナルティーを基本とするが、エントリーや受付等に遅れる行為に対してはこの限りでない。

(3). 今年度、コース上にペナルティーボックスを設置する。

ペナルティーを受け、ペナルティーボードにナンバーが表示されたにもかかわらず、ボックスに入ってペナルティーを消化しなかった選手は失格とする。

なお、審判員による誘導等は一切しない。

●メディア規制について

(1). 大会当日に大会に関する如何なる写真・ビデオ等の取材・撮影においても、必ず大会本部の許可を必要とする。

(2). 許可には身分証明と連絡先の提示を必要とする。これを提示しない者には、大会に関係する一切の取材・撮影活動を認めない。

(3). 大会側から取材・撮影に関するデータの閲覧を要求し、大会側がこれを不適切であると判断した場合、データの削除を要求することがあるが、撮影者はこれに応じなければならない。

(4). 本大会は競技中のトランジションエリア内の撮影は一切認めない。

●主要注意

(1). バイクコースの試走は大会前日までとし、その際はヘルメットの着用を義務付ける。応援の者であっても、大会会場周辺ではバイク乗車中ヘルメットを着用すること。試走の際、一時停止ラインでは係員の指示に従い、停止すること。これらに従わない場合、厳重注意を与え、それが複数回に及ぶ場合は失格・出場取消とする。

(2). ヘルメット着用の如何を問わず、多くの車両が出入りする駐車場ではバイクの乗車を禁止する。駐車場でバイク乗車についても厳重注意を与えることとし、それが複数回に及ぶ場合は失格・出場取消とする。

(3). 受付の際には本人確認のためJTUカードの提示を義務付ける。なお、電子媒体による提示は認めない。提示がない場合、大会への参加は認めない。

(4). ナンバリングは行わないため、選手は各自でフィジカルナンバーシールを貼って競技に臨むこと。大会会場は気温の上昇が予想され、汗等でシールがうまく貼り付かない可能性があるため、宿泊施設等で事前に済ませることを推奨する。

(5). 前日のバイクチェックは行わないため、各自で責任を持ってバイクの整備を行うこと。又、ヘルメットチェックも各自行うこと。ヘルメットストラップは顎にしっかりフィットし

ていることを前提とし、不適切と判断された場合は競技中であっても、これを直させるために、選手の動きを止める場合がある。

(6). 一般客、ボランティアスタッフ、大会役員、審判員等への不適切な言動はペナルティーの対象とする。

(7). 目に余る危険行為、替え玉出場、ドーピング等の不正行為を行った場合は失格とする。

(8). コースのショートカット、周回不足等で規定の競技距離をカバーしていない場合は失格とする。

(9). 観客、主催関係者、そして地域住民に注目されていることを十分に認識し、良識ある行動を心がけ、挨拶、時間厳守、ゴミの処理、式中の私語は慎む等、学生としての自覚を持って行動すること。

(10). コースを離脱した場合においても、元の地点に戻れば競技を再開することができる。

但し、原則としてコースの逆走及び停滞はしてはならない。

(11). リタイアする場合は、必ず選手本人又は代理人が大会本部又は審判員にアンクルバンドを提出すること。

(12). エイドステーションから提供されるコップ等は指定された場所に捨てること。

(13). 補給食等のゴミを競技コース上に捨てることは禁止する。

(14). 校旗やのぼりをフィニッシュゲートに取り付けることはできない。但し、フィニッシュ時のフラッグの受け取りは許可する。

(15). 脱水症状にならないよう水分補給を心がけること。

(16). ヘッドホン類、ガラス容器の使用、通信機器(携帯電話等)の使用は禁止する。

(17). フィニッシュ後はレースナンバーを速やかに外すこと。

(18). レースナンバーは必ず体の前後につけること。

●スイム競技

(1). 本大会においては、水温 20℃未満の場合ウェットスーツ着用義務とし、20℃以上の場合、原則として着用不可とする。水温については当日公式掲示板に示す。

(2). 先頭の選手が二周回を終えるまでに周回ポイントへ到達できないと判断された選手には競技の中止を宣言する。

(3). 入水チェックは指定された時間内でのみ行うことができる。各選手には入水チェックを行うことを推奨する。

(4). 各選手は入水チェック終了の時間までに競技エリアに入らなければならない。一度競技エリアに入った選手は競技の終了まで出ることができない。

(5). 競技中に救助を必要とする場合は片手を頭の上で振り、声を出して救助を求めること。

(6). フォールスタート(フライング)が認められる場合にもスタートをやり直すことは原則としてしないが、当該選手にはペナルティーを与える。

(7). ウェットスーツを着用する場合、ウェットスーツの下にゼッケンベルトを装着することを認めない。

●トランジション

(1). 競技備品はトランジションエリア開放の時間帯のみ、これを移すことができる。

(2). 競技備品は通路や他の選手の妨げにならないように設置しなければならない。審判員は選手の公正な競技を確保する目的で、これを移動させる場合があり、又選手に対してペナルティーを与える場合がある。

(3). バイクをラックに掛ける時は、ラックナンバーが手前に見える向きのサドル掛けとする。向きを逆にした場合、他の選手に対する妨害行為とみなし、ペナルティーの対象とする。

(4). ヘルメットのストラップはラックからバイクを取り出す前にしっかりと締めること。バイクフィニッシュ後は、バイクをラックに掛けた後にストラップを外すこと。

(5). ナンバーカードについてもバイクを取り出す前に装着すること。

(6). レースウェア、ナンバーカードを整えてから、バイク、ラン競技に移ること。

(7). 乗降者ラインについては、タイヤではなく選手の足を基準とする。乗車時はラインを足が1歩超えてから乗車し、降車時はラインの手前で足を1歩ついてから降車すること。

(8). 競技中を除いて、審判員の許可がない限り、トランジションエリア内に入出入りすることはできない。

(9). トランジションエリア開放後、競技備品の回収には選手本人があたり、出口ではナンバーカードを係員に提示すること。救護にかかっている等、やむを得ない理由で競技備品の回収ができない選手については、当該選手と同じ大学・チームの者に回収の代理を認める。その際、代理人は当該選手のナンバーカードを持参すること。

(10). トランジションエリアクローズ時間以降の、エリア内での設営を一切認めない。クローズ時間に遅れてきた者および中で設営している者を、全員失格とする。

●バイク競技

(1). 本大会ではドラフティング走行を許可する。

(2). ダイレクトハンドルバー(アタッチメントバー、肘当てパットを含む)の使用は禁止とする。

(3). 最後尾の競技者は、先頭と基準距離以下に接近した場合、その時点で失格となり、審判員の指示に従い、コースアウトすること。

(4). バイク競技では硬質のヘルメット着用を義務付けるがドラフティング許可のため、後部が尖った形状のタイムトライアル(TT)用ヘルメットの着用は禁止とする。

(5). サイクルメーターの装着を推奨する。

- (6). バイクは JTU 競技規則、競技用バイク基準に則った物でなければならない。基準に則っていない場合、レースへの参加は認めない。
- (7). コーナー地点では先行する競技者を優先する。後続の競技者は先行する競技者の優先コースに入ってはならない。
- (8). コース状況によって審判員が発する減速等の注意に従って競技をすること。
- (9). バイクを離れて走行することを禁止する。
- (10). バイク競技中、バイクの故障が発生し、且つこれを修理することによって競技の続行を希望する場合、審判員の指示に従って独力で処置することが認められる。

●ラン競技

- (1). キープレフトを遵守すること。
- (2). 応援関係者及び他の選手の、競技者への伴走は認めない。
- (3). 意図的な同着は認めない。
- (4). フィニッシュ時はサングラスを外し、観客にアピールすることを推奨する。
- (5). 一度フィニッシュした選手が再度コース内に入ることはできない。

●その他

- (1). 選手は競技中であっても、審判長の裁量に基づき、競技を中止しなければならない場合があり、その指示には従うこと。
- (2). 雨天決行であるが、荒天で選手の安全確保が困難と判断される場合には、コース・競技の変更又は中止されることがある。
- (3). 変更となった事項については随時大会本部前の公式掲示板に掲げる。
- (4). その他細則は JTU 競技規則に基づく。

本紙に加え、JTU 競技規則を熟読の上、大会に臨むようにして下さい。競技ルールについての質問は、大会前日に行われる競技説明会で受け付けます。又、変更等がある場合も競技説明会でお知らせ致します。

問い合わせ先
日本学生トライアスロン連合審判委員会
jutu08_info@yahoo.co.jp